



S.Setoguchi

サマーマイルシリーズ

THE CHUKYO KINEN

第73回 中京記念 (GⅢ)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円
付加賞 427,000円 122,000円 61,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳54^{kg}・4歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2024.8.10以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅡ競走またはGⅢ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2024.8.9以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

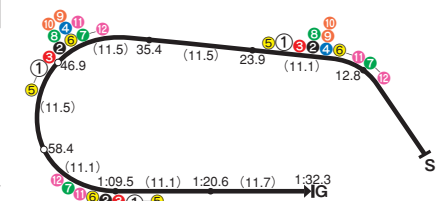
2025.8.17 中京 晴・良 芝1600m (国際 特種)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	①	マビウス	牝3	52	横山武史	1:32.3	2-2-2	33.6	488(+6)	8.7⑤	和田勇介(美浦)	108
2	⑤	シンフォーエバー	牡3	54	松若風馬	クビ	1-1-1	34.0	502(+2)	20.0⑦	森 秀行(栗東)	111
3	⑥	ジュンオレンジ	牡4	55	吉村誠之助	½	9-7-7	33.3	470(+16)	57.2⑩	長谷川浩大(栗東)	106
4	⑧	エコロヴァルツ	牡4	57	坂井瑠星	アタマ	4-4-4	33.5	486(-6)	3.8②	牧浦充徳(栗東)	110
5	⑪	キープカルム	牡4	58	松山弘平	1	10-10-10	33.3	496(±0)	5.3③	中竹和也(栗東)	
6	②	トランキリテ	牡6	57	小沢弘仁	ハナ	4-4-4	33.6	470(-4)	52.8⑨	松永幹夫(栗東)	
7	⑦	ウォーターリヒト	牡4	58	菅原明良	クビ	11-10-11	33.3	468(+2)	5.8④	石橋 守(栗東)	
8	③	エルトンパローズ	牡4	58	川田将雅	アタマ	3-3-3	33.8	520(+2)	3.4①	杉山晴紀(栗東)	
9	⑨	ブルーミンデザイン	牡4	57	団野大成	クビ	6-7-7	33.5	490(±0)	10.7⑥	宮本 博(栗東)	
10	④	セブンマジシャン	牡4	57	A.バテル	½	6-7-7	33.6	496(-4)	29.0⑧	高野友和(栗東)	
11	⑩	メイショウシンタケ	牡7	57	高杉史朗	2½	12-12-12	33.6	482(-6)	117.0⑪	千田輝彦(栗東)	
12	⑫	コレベティートル	牝5	57	井上敏樹	1	6-4-4	34.3	474(±0)	86.7⑫	中竹和也(栗東)	

単勝①870円(5^{kg}) 複勝①340円(5^{kg}) ⑤830円(8^{kg}) ⑥1,110円(10^{kg}) 枠連①-⑥7,390円(20^{kg})

馬連①-⑤11,300円(27^{kg}) ワイド①-⑤3,040円(32^{kg}) ①-⑥4,320円(41^{kg}) ⑤-⑥10,170円(54^{kg})

馬単①-⑤20,110円(55^{kg}) 3連複①-⑤-⑥90,630円(139^{kg}) 3連単①-⑤-⑥367,690円(640^{kg})



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.4 - 46.9 - 58.4 45.4 - 33.9

アラカルト

- ・横山武史騎手は中京記念初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算26勝目
- ・和田勇介調教師は中京記念初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算5勝目
- ・マインドユアビスケッツ産駒はJRA重賞通算2勝目
- ・3歳馬の勝利は19年グルーヴィットに続く通算4回目
- ・牝馬の勝利は21年アンドラスに続く通算12回目。なお、3歳牝馬の勝利は初

マビュース *Ma Puce*

牝 栗毛 2022.3.26生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・吉本雄二氏 美浦・和田勇介厩舎
馬名意味・かわいい子(仏)

カノープスUSA系 F1-S

マインドユアビスケットUSA Mind Your Biscuits 栗毛 2013	Posse 鹿毛 2000	Silver Deputy
	Jazzmane 栗毛 2006	Raska
フィルムフランセ 鹿毛 2014	シンポリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Tocet
		Alljazz
	フレンチノワール 鹿毛 2005	Kris S.
		Tee Kay
		フレンチデビュティUSA
		パーブルホワイト

5代までのインブリード：Deputy Minister S4×M4×S5 Roberto M4×S5
Hail to Reason S5×M5

INTERVIEW

東礼治郎場長(社台ファーム)

タイトル獲得までに至り興奮しています

放牧先の山元トレセンで順調にリスタートしたことは聞いていました。桜花賞での頑張りは牧場に活気を与えてくれ、ついにタイトル獲得までに至り興奮しています。2歳秋から上級馬たちとのレースで切磋琢磨して蓄えてきた地力が花開いたのでしょ。酷暑での体調管理を求められた厩舎、減量してくださった横山騎手、それに応えた馬、すべてに感謝がありません。

S.Suzuki



「Suzuki」が強調。逃げ切るか、捉えるか。3歳両馬が繰り広げた攻防の軍配は、クビ差でマビュースに上がった。マインドユアビスケット産駒の本馬は昨年8月のデビュー以降、マイル戦に照準を定めてキャリアを重ね、新馬戦、赤松賞と2歳時に2勝を記録。3歳を迎えた今年はクイーンC2着、桜花賞でも4着に追い込んだ。続くNHKマイルCでは速い時計の決着に対応できず、7着に敗れたが、この日は初コンビを組んだ鞍上の積極的なリードに迎え、強力な古馬勢を撃破。追い込みでの好走が目立ったこれまでのイメージを一新する走りでも重賞初制覇を果たし、秋への期待が膨らんだ。

父マインドユアビスケットUSA

北米、首25戦8勝(ドバイゴールデンシャヒーン・首^{G1}2回、マリブS・米^{G1}、アムステルダムS・米^{G2}、ベルモントスプリント選手権S・米^{G2}、ルーカスクラシックS・米^{G3}、BCスプリント・米^{G1}2着)、19年から日本で供用〔代表産駒〕**デルマントガケ**(全日本2歳優駿^I、UAEダービー^{G2}、BCクラシック・米^{G1}2着)、**ホウオウビスケッツ**(函館記念^G、金鯱賞^{G2}2着、毎日王冠^{G2}2着、スプリングS^G2着、天皇賞(秋)^{G1}3着)、**マビュース**(本馬)、**マルカラビッド**(エーデルワイス賞^{II})、**ショーモン**(デリー杯2歳S^G3着、アーリントンC^G3着)、**フルメタルボディー**(谷川岳S・L2着、ジュニアC・L3着)、**クイーンオブソウル**(アネモネS・L3着)、**ノブノビスケッツ**(MRO金賞、北日本新聞杯、兼六園ジュニアC)

母フィルムフランセ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央25戦4勝

シェルブルレイン(21 牝父サトノダイヤモンド)中央3戦0勝、地方11戦0勝

マビュース 本馬(22 牝父マインドユアビスケットUSA)中央7戦3勝(中京記念^G、赤松賞、クイーンC^G2着) 獲得総賞金95,642,000円
レクランフランセ(23 牝父ボエティックフレアIRE)甥
(24 牝父ボエティックフレアIRE)
(25 牝父キズナ)

祖母フレンチノワール

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央4勝(舞浜特別)、23年用途変更

レッドエトワール(13 牝父ワークフォースGB)中央1勝

フィルムフランセ(14 前出)

レッドルゼル(16 牝父ロードカナロア)中央7勝(根岸S^G、コーラルS・L、室町S^{OP}、榎原S、三峰山特別、フェブラリーS^{G1}2着、カペラS^G2着、武蔵野S^G3着)、地方2勝(JBCスプリント^{II}、東京盃^{II}、東京盃^G3着)、首0勝(ドバイゴールデンシャヒーン^{G1}2着2回)、種牡馬

曾祖母パーブルホワイト

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央1勝。06年死亡

パーブルブローズ(03 牝父フレンチデビュティUSA)中央3勝

パーブルストック(04 牝父フレンチデビュティUSA)中央3勝、テーオーマ

ルクス(福島2歳S^{OP})の母

フレンチノワール(05 前出)

レッドヴァンクール(06 牝父クロフネUSA)中央4勝

鋭い決め手で3歳牝馬が古馬勢を撃破

中京競馬場がオープンした1953年に創設され、第3回の55年以降はハインド戦として親しまれてきた中京記念は今年から別定戦に衣替え。実施時期も8月に移設されたサマーマイルシリーズの第3戦には、昨秋のマイルチャンピオンシップを越え、以来の復帰戦となるエルトンバローズを筆頭に、朝日杯フューチュリティSの2着馬エコーヴァルツ、シリーズ開幕戦のしらさぎ賞の覇者キープカラムなどの実績馬が参戦し、熱気に包まれた。とはいえず、中心勢力と目された古馬たちの前には3歳馬が立ち上がり、鋭い決め手を浴え渡らせたマビュースが念願の重賞初制覇を果たした。

先手を奪ったのは関屋記念(10着から転戦してきた3歳馬シンフォーエバー)。ハイペースで飛ばした前走とは一転、落ち着いたラップを刻む逃げ馬を見送りながら、マビュースの横山武史騎手は離れた2番手を進む。エルトンバローズとエコーヴァルツがその直後を追走。立ち遅れ気味のスタートを切ったキープカラムは、一団となった馬群の後方で末脚勝負に構えた。

単騎の逃げに持ち込んだシンフォーエバーは、素手手応えと2、3馬身差のリードを保ったまま直線の坂を駆け上がり、押し切り態勢を築く。しかし残り200m地点を過ぎてから、少し脚色が鈍ったところへ、坂下から追い出され、エンジンに火がついたマビュースが強襲。逃げ切るか、捉えるか。3歳両馬が繰り広げた攻防の軍配は、クビ差でマビュースに上がった。

マインドユアビスケット産駒の本馬は昨年8月のデビュー以降、マイル戦に照準を定めてキャリアを重ね、新馬戦、赤松賞と2歳時に2勝を記録。3歳を迎えた今年はクイーンC2着、桜花賞でも4着に追い込んだ。続くNHKマイルCでは速い時計の決着に対応できず、7着に敗れたが、この日は初コンビを組んだ鞍上の積極的なリードに迎え、強力な古馬勢を撃破。追い込みでの好走が目立ったこれまでのイメージを一新する走りでも重賞初制覇を果たし、秋への期待が膨らんだ。